

2021 第 90 回 全日本大学卓球総合選手権大会 団体の部 島津アリーナ(京都)



愛知工業大学 3 年

田中佑汰 選手(左)

早稲田大学 4 年

岩越帆香 選手(右)

・男子優勝校殊勲賞 田中佑汰選手インタビュー

Q 全日本優勝経験のある宇田選手(明治大学)とゲームカウント 1-2 で回ってきて、対戦する前はどのようなことを考えていましたか？

A エースの木造さんとダブルスを落としてしまい、チームとしてはかなり厳しい状況であると思っていました。しかし、元々宇田選手に苦手意識はなく、思い切っていこうと思い、その点で覚悟が決まり、良い出だしを切ることが出来ました。

Q 前回優勝校として、緊張やプレッシャーがあったと思いますが、大会を迎える前の気持ちを教えてください。

A 今回独特な緊張感があり、前回優勝校としての緊張も勿論あるのですが、中学、高校、大学と一緒に木造さん始め四年生が 10 年目でラストの年だったので、どうしても勝って恩返しをしたいという気持ちが強かったです。

Q コロナの影響で練習が出来なかったり、大変な事があったと思いますが、どのように練習をしてきましたか？

A コロナの中で大変心境の変化が大きかったです。自分の中でモチベーションが下がり 6 ヶ月程卓球をしていない期間があったのですが、卓球以外の事について考えたりする時間が増え、いろんな考え方を学ぶことができました。

・女子優勝校殊勲賞 岩越選手インタビュー

Q 早稲田大学女子チームの主将として、今回優勝したお気持ちをお聞かせ下さい。

A 今大会、選手全員で準備をしてきて、チーム全員で優勝を掴むことのできた試合だと思うので、とてもうれしく思います。

Q 今大会、コロナの影響が大きく、練習も大変だったと思いますが、主将として、チームとして努力してきたことを教えてください。

A 春のリーグ戦に向けてみんなで練習を頑張っていたのですが、無くなってしまったので、すぐにインカレ(全日本大学総合選手権団体の部)に向けて、切り替えて練習しました。また授業がある中、空いている時間で自分たちで練習をし、優勝が出来たのでとても良かったと思います。